

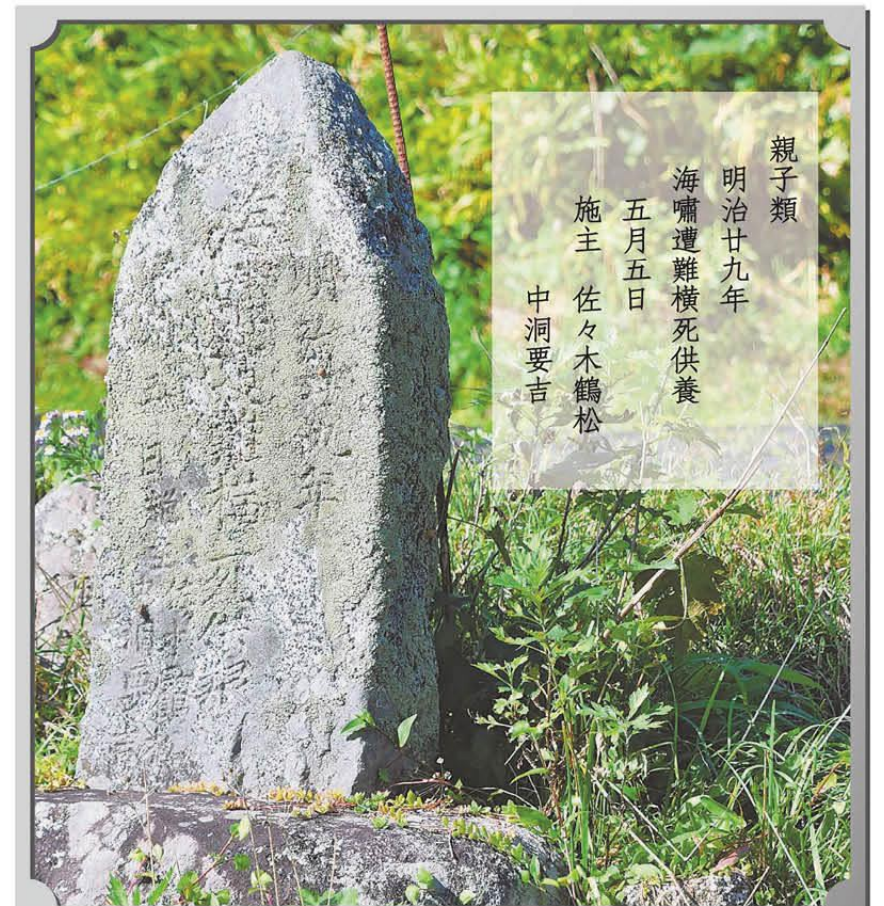
田老の犠牲者を供養

海から3m以上離れた宮古市田代の三陸鉄道佐羽根駅。同駅から北西200mほど、1896(明治29)年の津波の犠牲者を供養する高さ74cmの石碑がある。

近くを流れる田代川は程なく田老川と名前を変え、

同市田老へつながる。田代の佐羽根地区は、通学や買い物などで田老地区を生活圏とする住民が多く、昔から結びつきが強い。

田老村津波誌によると、同年6月15日(旧暦5月5日)の津波で田老1407人、乙部401人、摂待51人が犠牲となり、285戸以上が流失。「突如十五mの大波の襲来に、瞬時に全市街流失、水死する者凍死するもの惨状見るに忍びざるものありき、罹災生の思いを推し量る。」



親子類
明治廿九年
海嘯遭難横死供養
五月五日
施主 佐々木鶴松
中洞要吉

記憶の碑

～石碑編～

宮古市・田代地区

魅力創出へ新たな絆

大阪出身の福原隆泰さん(59)は、東日本大震災後、宮古市田老で助産師として活動が縁で市の地域おこし協力隊員となり、石碑が立つ同市田代地区の活性化に携わっている。

9月に着任し、同市田代の市野外活動センターの活用や地域の魅力発信を担っている。10月末には同センターで「森のシアター」あそびのひろばとわかしおそび体験inYAKAATUを初開催。市内の親子ら約100人が訪れ、福原さんの設置したアスレチック遊具などで遊ぶ子どもたちの歓声が響いた。

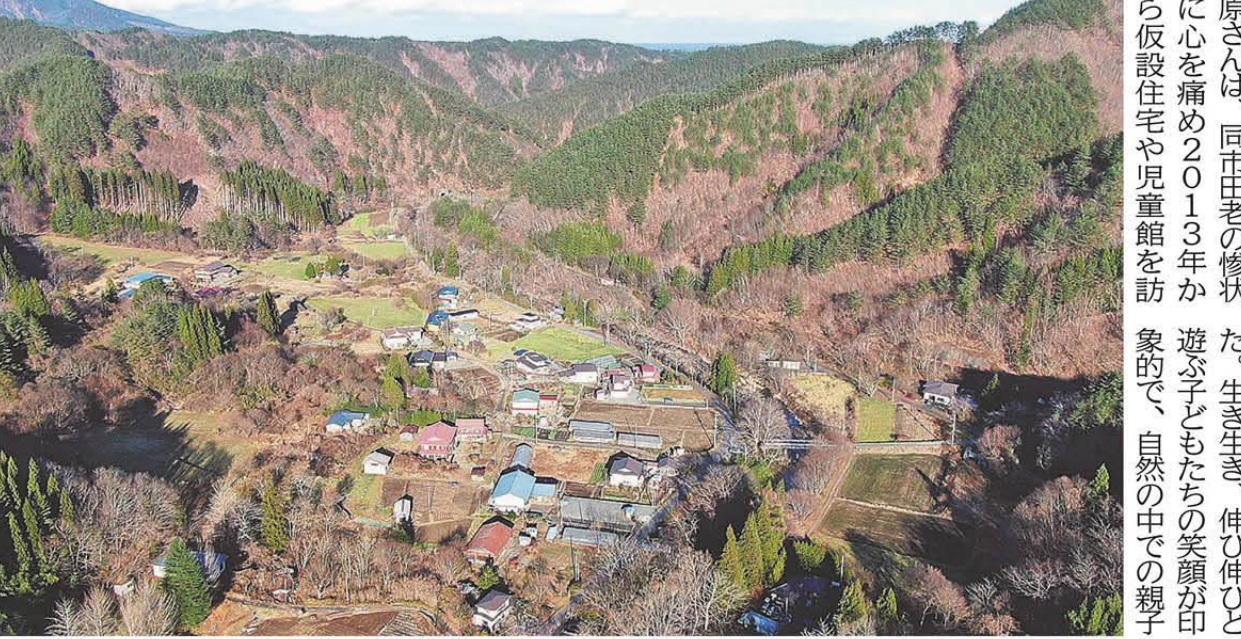
問: 子どもの遊び場をつくるって、複雑な事情があるんじゃないかと思う。素直で明るい子どもたちの笑顔が忘れられない」と振り返る。

田老児童館の館長時代に福原さんと出会った田代児童館館長の三浦明美さん(59)同市南町は「子どもたちを元気にしてくれたい。生き生き、伸び伸びと遊ぶ子どもたちの笑顔が印象的で、自然の中の親子遊びや触れ合いの大切さを知った」と感謝する。

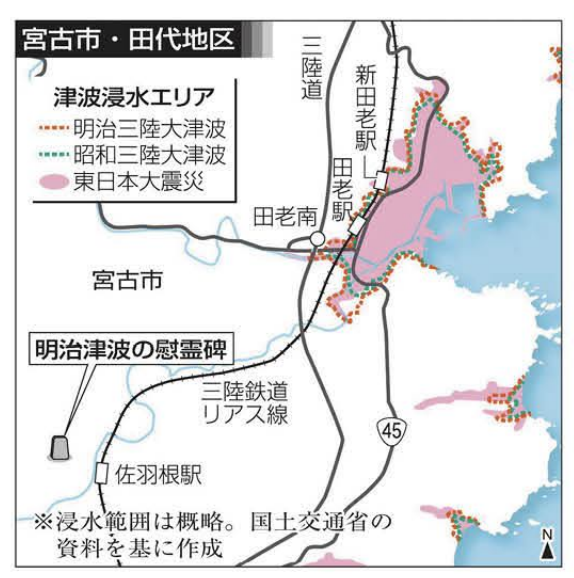
この連載は岩手日報HPでも公開し随時更新します



アスレチック遊具で子どもたちと遊ぶ福原隆泰さん(左)と三浦明美さん(宮古市田代・市野外活動センター)



どかな里山が広がる佐羽根駅近くの集落。古くから田老地区との交流が盛ん(本社小型無人機で撮影)



2014年8月6日 復興支援で宮古市田老のグリーンピア三陸みやこの仮設団地を訪れた福原隆泰さんが設置したアスレチック遊具で遊ぶ子どもたち(福原さん提供)

from 3.11

あなたと、生きていく。

岩手日報社

IBC岩手放送

Supported by Google News Initiative

根岬漁港(陸前高田)

人とのつながり財産



ドンコのかご漁に励む菅野修一さん

船に引張り揚げたかごからドンコを取り出し、次々とケースに放り込む。1時間ほど作業を繰り返す。20代で民泊を始め、かご漁の菅野修一さん(67)は、未明に根岬漁港を出港し、朝までドンコのかご漁に励んだ。

「二つ揚げて28箱。ますますだな」。共に民泊志士を切り盛りする妻幸子さん(70)らが待つ漁港に戻り、ほっと一息ついた。

20代で民泊を始め、かご漁の菅野修一さん(67)は、未明に根岬漁港を出港し、朝までドンコのかご漁に励んだ。

前記事の概要

陸前高田市広田町・根岬地区の漁業鈴木初男さんは、いこいで東京在住の漁手に連日電話をかけ、安否情報やライフラインの復旧状況などをブログで発信し



試験採取デブリも監視へ

福島 核兵器への転用防止

国際原子力機関(IAEA)や原子力規制庁は、東京電力福島第1原発の溶融核燃料(デブリ)の核兵器転用を防止するため、2021年に開始予定の試験的な少量採取の段階から、厳格な監視措置を取る。デブリに含まれるウランやプルトニウムの量の測定や、不正な持ち出しを検知する仕組みの導入を検討している。

IAEAや東電などは12年5月以降、デブリ監視は金庫やコンクリートなど不均質に混ざっているとみられ、核兵器転用は事実上不可能だが「国際協定に基づく責務」(東電)として、通常の原発と同様に厳格に対応することにした。

監視措置は、デブリを取り扱う施設や移送ルートなどにカメラや放射線の検出機器を設置するほか、中性子を使ってデブリを壊さずにウランやプルトニウムの含有量を測定する方法が中心になるとみられる。

東電は当初、19年度に少量のデブリを試験的に取り出す考えだったが、他の廃炉作業が計画通りに進まなかったことなどから見送っていた。21年中に計画している作業も新型コロナウイルス感染症拡大で機器開発が停滞している。

生きてる限り漁師



大槌町安渡 漁業 田中千秋さん(68)

震災当時は大槌漁港の倉庫で作業していた。海面が引いていくのを見て大槌町へ戻った。船や安渡にあった自宅を失った。中学卒業後からずっと漁業で生きてきたが、あのときはやめようと思った。震災後、大槌の仕事を辞めたが、5年ほど前から大槌で漁師に戻った。海水温が高くなり数は減っているが、夏のメカジキ漁はやっぱりロマンがある。生きてる限り、漁師を続ける。

津波でんでんこ

題字 山下文男さん

いわて漁業無線情報 (10日)	
◆釜石無線局所属船	53欣栄丸 96回目操業中 水3
◆指定調査船	81欣栄丸 11時気仙沼発沖出し
◆マクロロイネ網船	83欣栄丸 操業中
	85欣栄丸 操業中
	128欣栄丸 35回目操業中
	138欣栄丸 85回目操業中
	151欣栄丸 航行中

158欣栄丸 操業中	1勝運丸 操業中
68清福丸 操業中	78清福丸 操業中
88清福丸 操業中	23新生丸 操業中
◆サンズ船	108欣栄丸 帰航中

災害義援金受け付け

- 【東日本大震災】
 - ◆銀行振り込み
 - ▽岩手銀行本店(普) 2135547
 - ▽北日本銀行本店(普) 7028487
 - ▽東北銀行本店(普) 3237448
 - ▽盛岡信用金庫本店(普) 0354142
 - ▽東北労働金庫盛岡支店(普) 5853584
 - ▽岩手県信連本所(普) 0027190
- ◆岩手日報社窓口
 - 本社と二戸、花巻、北上、奥州各支局と一関支社で。平日の午前10時～午後4時(土日祝日は除く)。
 - ※口座名は、岩手銀行は「(株)岩手日報社 義援金口」。他は「(株)岩手日報社」。同一銀行からの振込手数料は無料(窓口取り扱いはのみ)。

【令和2年7月豪雨災害】

- ◆岩手日報社窓口
 - 本社事業部では平日の午前10時～午後4時。土日祝日は除く。
 - ◆振り込み
 - ▽ゆうちょ銀行・郵便局 00110-8-588189
 - ※口座名は「日赤令和2年7月豪雨災害義援金」。
 - ※受領証の発行を希望する場合は、通信欄に「受領証希望」と記載のこと。

根岬漁港 陸前高田市の広田半島最南端に位置し、刺網などの漁船漁業やワカメ養殖、ウニ・アワビ漁などが営まれていた。沖の樺島(国指定天然記念物)と青松島(国指定天然記念物)がシンボルで、樺島はウニの繁殖地としても知られる。地元の根岬地区には高台に約100戸が並び、このうち樺島津波被害を受けた。

開。心苦しさはあったが、孫に「取ってきた魚を食べたい」との一言があった。産であることに変わりはない。「体が動くうちは」と漁師宿を続ける。

【振り回され続けた】という9月9日。原告の一人として固定式刺網によるサケ漁の許可を求めて裁判で闘った。敗訴の結果にも「正しい主張だ」との思いは変わらない。

今は新型コロナウイルス感染症の影響で、民泊の受け入れを県内業者者に限定。収入が見えず、復興工事も